ニューズレター 2019年6月28日

koto-nobu-log.

箏奏者 吉澤延隆の今を発信！

奥沢に稽古場オープン！

第1号のお弟子さんとともに

昨年からうっすら描き始めていた稽古場の開設準備が整い、この度、世田谷区奥沢の「Space 環音」をお借りして稽古場をオープンすることとなりました！

また開設に合わせて、お稽古を希望されている方もご紹介頂き、最初のお弟子さんを迎えてのスタートを切れることになりました。この度の稽古場開設にお力添えやアドバイスを下さった方々に、心から御礼を申し上げる次第です。

これから、どういった会にしていこうか、どのような歩みになるのか、新しい楽しみができました！
今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。

NEXT ACTION

7月15日@滋賀県立文化産業交流会館

親子で楽しむ『**日本の伝統芸能**』に出演します

8月15日@川口リリアホール

ミラノのダ・ヴィンチ

チケット発売中です！

8月25日@宇都宮市文化

SANKYOKU 2019

チケット発売中です！

日本フィンランド2019

両国の外交関係樹立100周年

6月18日、東京の駐日フィンランド大使館にて、日本・フィンランド新音楽協会による講演会とコンサートが行われました。

J.シベリウス（1865-1957）、PH.ノルドグレン（1944-2008）といったフィンランドの作曲家作品を中心としたコンサートが、指揮者の新田ユリ氏の司会進行で行われ、私は昨年のリサイタルで委嘱したユハ T.コスキネン（1972-）による《薄氷 十七絃のために》を再演しました。

私がフィンランドを訪れたのは2011年11月。その時のヘルシンキが私にとっての初めての北欧で、防寒のためのニット帽にダウンジャケット、そしてバックパックを背負った箏奏者が持ち込んだ楽器はスキー板と思われ￥3,000という格安の超過荷物料で預けることができ、得した気分になったのを覚えています。そのヘルシンキ滞在中、東京でのレジデンスを終えて帰国したユハ氏と知り合ったことが、今回の十七絃箏作品を委嘱するきっかけになりました。

“次の100年に向けた相互の交流”

当日のプログラムでも取り上げられたPH.ノルドグレンは、箏、十七絃箏、三味線、尺八のための四重奏曲、その邦楽四重奏とオーケストラによるコンチェルトなど、日本へ留学していた時期に当時の「邦楽４人の会」との交流から生まれた作品も残しています。

フィンランドの作曲家作品は、「Music Finland」の作曲者作品ページ https://core.musicfinland.fi で確認、購入も可能になっており、世界中の音楽家がフィンランドの作曲家作品にアクセスできる環境も整えらえています。

吉澤延隆 箏曲研究所　世田谷奥沢教室　（事前予約制･個人レッスン）

【場所】 Space環音（東急目黒線「奥沢」駅より徒歩2分）

【料金システム】

1レッスン制（45分間）：￥7,000（税込）

月極め制（45分間×2回/月）：￥12,000（税込）

入会金（初回のみ）：￥10,000（税込）

お支払いには、クレジットカードのご利用も可能です。

＊詳細は、お気軽にお問い合わせください。